

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、日々のミーティングやカンファレンスでの話し合いを通して実践につなげている	「共に歩む」の法人理念を各ユニットの玄関に掲示し来訪者の目にもふれるようにしている。事務所内には理念に合わせ事業計画を掲示し、職員間での共有と実践に繋げている。ベテラン職員も多く理念の持つ意味を良く理解して日々の支援に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に事業計画に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流は難しい状況だが散歩時には挨拶をするなどしている	開設以来、地域との交流に力を入れ取り組んできており、町会長より行事の都度案内を頂き、参加出来る行事については積極的に参加しているが、現在は新型コロナの影響を受け全ての行事が中止に追い込まれ残念な状況が続いている。収束後には地域の文化祭や防災訓練、オレンジカフェ等積極的に参加し、合わせて地域ボランティアの受け入れや専門学校生の職場体験の受け入れも再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報の発信に努めている。また介護実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為ホームの様子を文章にし郵送にて報告している	家族代表、町会長、町会顧問、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催しているが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催を行い、利用状況、活動状況、行事計画、その他特記事項等を書面に纏め会議参加メンバーに届けると共に返信用封筒と「ご意見用紙」を同封し意見を頂くよう心掛け、コロナ禍という状況下でも関係が継続できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為派遣相談員の訪問は中止しているが運営推進会議の報告書は包括支援センターへも送り協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとはオレンジカフェの参加連携を図ったり入居状況等の相談をしている。介護認定更新調査は現在は中止の状況が続いているが、11月より再開され調査員が来訪して行われる予定である。市の介護相談員の来訪も現在は行われていないがコロナ収束後にはまた再開する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を通じ何が身体拘束にあたるかを理解しケアに取り組んでいる	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。外出傾向の強い利用者はいないが、天気の良い日には敷地内を散歩し気分転換を図るようにしている。また、所在確認には気配りをし、ホールに必ず職員が1名はいるようにし安全の確保に努めている。転倒危惧のある方がおり家族と相談の上センサーマットを使用している。年2回法人より用意された身体拘束に関わる資料の読み合わせを行い、拘束に対する意識を高め支援に活かしている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ虐待のないケアに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ学ぶ機会を持っている。必要に応じ関係者等と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月生活の様子をお知らせしており、電話等において何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている	三分の二ほどの利用者が意思表示の難しい状況であるが表情や普段からの様子を見て、その日、その時の状況を推察して思いを受け止めるようにしている。家族の面会は事前に連絡を頂き窓越しでの面会を短時間にて実施している。また、コロナ禍の中ではあるが敬老会をホーム内で行っており、その際、家族に対し事前にメッセージカードをお配りし家族の近況をメッセージに写真を添え届けて頂いただき敬老会当日に利用者にお渡しして喜んでいただいている。更に、利用者一人ひとりの日々の様子について写真を添えた個人別のお便りを毎月作成し家族に届け喜ばれている。また、例年であれば年2回行っている家族会が実施できない状況が続き残念であるが、コロナ収束後には再開し交流を深める予定でいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境作りを努めており、カンファレンスや面接などで意見や提案を聞く機会を設けている	現在は新型コロナの予防策として密を避け全体での職員会議を見送り、月1回のユニット毎のカンファレンスで利用者一人ひとりの状態の把握、身体拘束適正化委員会、個人情報管理、各種勉強会、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、法人としての人事考課制度があり、年2回、個人目標に沿って自己評価を行い、それを基に管理者による個人面談も実施し、評価と合わせ業務全般に対する話し合いの場としてチームワークを図るとともに職員一人ひとりのスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行うなど、向上心を持って働けるよう配慮している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促したり勤務の調整を行うなど、研修に参加できる機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にあるグループホームの運営推進会議に相互に参加し合うなど、交流や情報交換を行っている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見ながら、会話を通じ聞き出したり表情を見たりしながら、ご本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の要望を聞きながら信頼関係を築いていくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認しながら必要な支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来ることを一緒に行ったり、お茶の時間などに話し相手になったりしながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはご本人を囲み一緒に話をしたり、外出や外泊などをご家族等に協力してもらいながら、情報を共有し共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と電話で話すなど出来るだけ途切れないよう支援に努めている	現在は新型コロナの感染予防のため、友人、知人との面会は中止している。希望により事務所より家族に電話をされる方がいる。毎年年末には個人別に年賀状を作成して家族に郵送し喜ばれている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	席の配置や外出時の組み合わせに配慮を したり、職員が共に会話に参加するなどした りして、関係がうまくいこう職員が調整役と なって支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や電話で近況を聞いたり 面会に行ったりしながら支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話や行動の中から希望や意向を 把握するよう努め、変化を見逃さないよう 日々の気付きを共有しながら、カンファレン ス等でご本人の立場に立ったケアを検討し ている	利用者の高齢化が進んでおり自由にのんびりと過 していただくようにしている。そのような中、会話や仕 草より意向を受け止め支援に繋げるようにしている。 洋服や飲み物選びについては2~3種の提案を行い 「どちらがいい?」と選んでいただくようにしている。ま た、時折行方一日喫茶店でのケーキ選びは写真を用 意して希望の物をお出し喜んでいただいている。合 わせて日々の関わりの中で気づいた事柄については タブレットの中のケース記録として纏め、出勤時に確 認して業務に入るよう徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご家族やご本人、またこれまでのサービス 提供者等から話を聞くなどして把握に努め ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を注 視し、記録やカンファレンス等で情報を共有 しながら、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中から意見や 想いを聞き、カンファレンス等での話し合い を通してそのときの状況に即した介護計画 を作成している	職員は1~2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、 不足物の補充、衣類の交換、誕生日のメッセージカ ードの作成等を担当している。月1回のカンファレンスで 職員の意見を出し合いモニタリングを行い、家族の希 望は電話でお聞きしケアマネージャーが意見を纏め プランの作成を行っている。また、利用者本人にプラン 内容を説明し本人の了承も頂いている。入居時は1~ 2ヶ月、仮のプランを作成し様子を見て、その後、6ヶ月 の短期目標を立て取り組み、状態に変化が見られた 時には随時見直しを行い、利用者一人ひとりに合わ せた支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言葉や表情などより詳しくわか りやすい記録に努め、情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう、柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のオレンジカフェへの参加や、派遣相談員の訪問など、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医について丁寧に説明し、納得と同意を得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している。主治医には状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在はホーム協力医の月1回の往診対応の方が大半で、入居前からのかかりつけ医の月1回の往診対応の方が若干名という状況である。合わせて週1回、協力医療機関の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理と医師との連携を図り24時間の対応が可能となっている。また、誕生日に合わせ協力医での「誕生日検診」が行われ、一通りの検査が行われ万全な医療体制となっている。歯科については必要に応じ近くの歯科医院の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を含め、必要に応じ気づいた点や状態の変化を伝えて相談し、情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に行き状態の把握に努めるとともに、退院に向けた医療関係者との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明を行い話し合いを始めている。随時ご本人やご家族の意向を聞き、主治医等とも相談し方針を共有しながら、チームとして最後まで安心して暮らせるよう支援している	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。体調が悪化し終末期に到った時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合い、医師の診断に沿い家族の意向も確認し看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の方の看取りを行い、コロナ禍という状況下であるが家族にも居室で最期の時を共に過ごしていただき感謝の言葉も頂いている。家族のような心のこもった看取り支援を心掛け、普段のケアの中でベテラン職員から事ある毎に看取りケアの心構えについて話をし、万が一に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や施設内研修などを通じ知識や技術を身に付けられるよう努めている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や大雨を想定した避難訓練などを行い避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施している。	年2回、6月と11月に併設のデイサービス、隣接ケアハウスと合同で消防署員参加の下、法人危機管理室の指導も受け防災訓練を行っている。火災想定で、水消火器を使っての消火訓練、玄関先まで移動しての避難誘導訓練などを行っている。また、今年度は9月1日には大雨を想定しての避難訓練を行い、利用者を隣接ケアハウスの3階まで誘導し防災に備えた体制も確認したという。その際に、通報訓練、緊急連絡網の確認も行っている。備蓄については「水」「米」「レトルト食品」「缶詰」等が3日分用意されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている	言葉遣いには特に気配りをし、優しく、利用者に伝わる言葉で話をするようにしている。また、排泄介助の際には人のいない所で小さな声でお誘いするよう徹底している。呼び掛けは尊敬と親しみを込め苗字に「様」付けでお呼びしている。年1回、プライバシー保護に関する勉強会を行い意識を高め支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉を工夫しながら一人ひとりに合わせ出来るだけ選択が出来るような声かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちやペースを大切に、日課などを優先しないよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には好きな服や髪型を自己決定できるようにし、職員が決める場合でもご本人の好みを考慮して決定するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望を聞いたり、毎回の食事を写真に収め反応を記録するなどして一人ひとりの好み等を把握しながら食事に活かしている。また盛り付けや下ごしらえなど出来ることを一緒にいながら支援している	自力で摂取できる方が三分の二、一部介助と全介助の方で三分の一という状況である。平常時であれば職員が利用者と共に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしているが、現在はコロナの影響で共に食事が取れない状況が続いている。献立は職員が冷蔵庫の中の食材で季節感や彩りを考えバランス良い、心のこもった料理を提供している。外食についても出掛けられない状況となっているが月1回の行事の際にはお弁当やお寿司をテイクアウトし楽しいひと時を過ごしている。また、お彼岸等には「おはぎ」等を作り季節感も味わっている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ毎食後口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めながら誘導や声かけを行い、身体機能に合わせた介護用品も検討するなど、トイレでの排泄を大切にケアを行っている。	自立の方が四分の一弱、一部介助の方が三分の二弱、全介助の方が若干名という状況となっている。排泄表を用いパターンを把握し、一人ひとりのパターンに合わせてトイレにお連れしている。また、起床時、おやつ前、食事前、就寝前にも定時の声掛けを行い気持ち良く過ごしていただくようにしている。更に、排便促進を図るべく、お茶、コーヒー、毎朝の「ヨーグルト」、入浴後の「スポーツドリンク」等の水分摂取にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等と相談し、食事内容を工夫したり散歩や体操などの運動を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースで入浴出来るよう時間帯なども配慮し、入浴が楽しめるよう工夫している。拒否のある方には無理強いせず、時間や日を変更するなど状況に応じた支援を行っている	全利用者が何らかの介助を必要としている。基本的には週2回の入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが時間を替えタイミングをずらし対応している。季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等を行い、楽しく入浴していただくようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見ながら午睡や休息の時間を取るようにしたり、生活のリズムが安定するよう環境を整えるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報が常に見られるようになっていく。変更があった場合には職員に周知し、状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話やご家族への聞き取りなどから一人ひとりの好きなことを把握し、家事や散歩、手芸など、利用者様が喜びや役割を持つよう支援している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為外出は控えているが、施設内で雰囲気を感じられるような催しを、出来る範囲で対応するよう努めている	外出時、自立歩行の方が三分の一、歩行器使用と手引き歩行の方が三分の一強、車いす使用の方が数名という状況である。コロナ禍のため外出レクリエーションが難しい状況が続いているが、施設の敷地内で四季折々の花々が楽しめるので天気の良い日には職員と共に花を見ながら散歩を楽しんでいる。また、ホーム内を歩いたり体操を行うことを日課とし体力維持にも取り組んでいる。コロナ収束後には計画を立てて外出レクリエーションに出掛ける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持してもらい、買い物などの際は支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはのれんやモビール、花などを飾り季節感を採り入れ、また温度や明るさなどはこまめに調整するよう努めている	ホール兼食堂は広々と天井も高く開放感が漂い、所々に季節の花が飾られ季節感が味わえるよう気配りがされている。壁の掲示板には毎月の行事の様子を写した写真が飾られ活動の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、一人で過ごせたり仲の良い利用者様同士でくつろげるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの家具などを置いている。また花や写真を飾るなど、ご本人が馴染みのあるものに囲まれ居心地の良い空間になるよう工夫している	大きなクローゼットが設けられ、整理整頓が行き届いた居室は清潔感が漂っている。持ち込みは家族と相談の上、使い慣れた家具、ハンガーラック、テレビ等をレイアウトし、壁やタンスの上には家族の写真や職員から送られた誕生日のメッセージカード等が飾られ、居心地の良い生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい言葉で案内を書いたり、必要な目印を付けたりして、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している		